

一般社団法人 CEPA ジャパン
定時社員総会

議案書

日時：2013年5月22日（水曜日）19時00分～20時00分

会場：喫茶室ルノアール 銀座6丁目店マイ・スペース5号室

東京都中央区銀座6-12-10 旭ビル1階 03-3574-7876

地下鉄銀座線銀座駅A3出口徒歩4分三井住友銀行角左折100m直進左手

<http://standard.navitime.biz/renoir/Spot.act?dnvSpt=S0107.2043>

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
2. 定足数の確認
3. 議長選出
4. 議案審議

第1号議案 2012年度 事業・活動報告

第2号議案 2012年度 収支決算報告

第3号議案 2013年度 事業・活動計画

第4号議案 2013年度 予算計画

第5号議案 定款変更

第6号議案 理事選任

5. 議長退任

○閉会

第2部 交流会 20時30分～22時00分

会場：全国うまいものサロン NAMIHEI（なみへい）

東京都中央区日本橋本石町4-2-6 神田 GMビル1F

※アクセス JR神田駅 西口・南口から徒歩3分

銀座線神田駅東口・北口から徒歩5分

<http://www.namihei5963.com/namihei-board/list4.html>

会費：5000円（全国のおすすめの地酒飲み放題）

第1号議案 2012年度 事業・活動報告

1. 事業展開方針

第3期を本格的活動の開始と位置づけ、日本らしい生物多様性を守り、ひいては地球環境の保全と自然環境の保護や整備、そして国民の自然資産への理解醸成に寄与する活動と世界への経験の共有を展開した。ミッション達成のため、当法人の事業はすべて「5 ACTIONS」に基づき事業を実施、「5 ACTIONS」を管理し、実践した。

「5 ACTIONS」

(1)たべよう

地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

(2)ふれよう

生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

(3)つたえよう

自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

(4)まもろう

生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

(5)えらぼう

エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。

また、第3期の事業は、次の「4 POINTS」に沿って展開した。

A)伝える

日本の暮らし中で息づいていた自然との共生そのものが、生物多様性の保全であるという理解を促す。そのために、メディア、イベント、セミナー、アワードなどで、ツールやウェブを活用する。

B)集める

東日本大震災の復興支援活動も含めて日本各地の多様な自治体、企業、市民活動の事例や、メディアの事例を収集する。

C)つながる

海外の最新情報を国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会(IUCN-CEC)のニュースレターや生物多様性条約事務局のウェブサイトから収集し、多くの情報を持つ事でより強い発信力を培っていく。

D)貢献する

国際自然保護連合(IUCN)第5回世界自然保護会議、生物多様性条約第11回締約国会議(CBD-COP11)などを通じて海外に活動事例を発信し共有し、世界中で行われる「愛知ターゲット」の実現に向けた活動に貢献する。

そのため事業は、「5 ACTIONS」×「4 POINTS」の20のマトリクスで展開された。

なお、「5 ACTIONS」は国連生物多様性の10年日本委員会のMY行動宣言と統合するよう提案し、採用された。さらに生物多様性国家戦略2012-2020への提言を行い、市民の役割に唯一記載された。国民運動ツールとなり、それを受け、当法人でも暮らしから生物多様性を考えるツールとして「いきものぐらし」を開設した。

<事業内容>

2012年度は CEPA ジャパンの体制づくりの一年として、以下の事業を展開した。

< 1 > CEPA ジャパンの組織基盤強化

1. 理事会の機能強化

外部の行政書士、会計士などの専門家の協力を得ながら公益社団法人化を進めるための準備を行ってきたが、組織基盤体制を整えることが先行課題であり、公益活動の開始を検討することから、申請については取り下げをした。

2. 事務局体制の強化

活動の活発化に伴い、東京連絡所(事務局長)だけでは対応できない事案については事務の補助作業をお願いして分掌した。特に、申請書作成、報告書作成、情報収集、情報発信に尽力していただいた。

3. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、32名であり、引き続き、会員拡大に努力する。

2013年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 20名 賛同会員(個人) 11名 賛同会員(団体) 1名 賛助会員 0名

4. 広報

当法人の基幹事業として「5 ACTIONS」に関するツールの開発を行った。

4-1 ホームページ「いきものぐらし」を開設して、CEPAに関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 生物多様性に貢献している企業事例などを紹介し、一般消費者が選択可能な情報を整備した。

4-2 また、普及啓発のための映像「いきものぐらし」を作成して、WEB上で公開した。

<http://5actions.jp/movie/>

4-3 CEPA ジャパンのホームページに海外の事例を日本語で紹介した。

国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会のニュースレターや生物多様性条約事務局のウェブサイトの情報を日本語に翻訳し、世界中の事例を一般に向け情報公開・発信する。

4-4 CEPA ジャパンの海外向けサイトを作成、国内の事例を海外へ情報発信に努めた。

<https://sites.google.com/site/cepajapan2012/english>

4-5 海外向けに「5 ACTIONS」の紹介ツールを作成して、インド開催の COP11 で配布した。

4-6 総会で意見交換された会員向けの情報発信として、当法人の活動を紹介するメールマガジン「CEPA ジャパン NEWS」を毎月1回、計7回発行した。

4-6 facebookのページを作成した。和文<http://www.facebook.com/cepajapan.org>

英文<http://www.facebook.com/CepaJapan>

5. 総会・理事会の開催

【総会】

2012年度の通常総会は2012年6月27日(水)に日経ピーアール社の会議室をお借りして、開催した。第1部としてCEPA ジャパン会長にご就任いただいた堂本暁子会長による「私と生物多様性」基調講演、RI0+20参加者からのホットな状況報告ののち、開催した。2011年度事業報告と決算、2012年度計画と予算について決議した。

【理事会】

また、2012年度の理事会は以下の3回を開催した。

●2012年5月30日理事会

総会の審議に付与するべき事項について審議、総会議案として上程した。

- ・2011年事業報告・決算、2012年事業計画・予算

運営に関することを審議した

- ・事務局設置に関すること
- ・メールマガジンの発行

●2012年10月11日理事会

組織の基盤強化に関する事項を整備した。

- ・公益法人化については取り下げとした。
- ・上半期の評価と下半期の事業計画、予算推移について確認した。
- ・ヨコハマbデいの運営体制について協議した。

●2013年2月27日理事会

次年度に向けての意見交換を行った。

- ・下半期の評価と予算の執行状況について
- ・次年度事務局体制は委託をふくめて考えていくことになった

6. その他

財政基盤強化をはかった。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、「5ACTION」のツール作成、ツールをつかった普及啓発を行った。また、引き続き、受託業務の拡大に努めるとともに、自律的な財源確保のため、自主事業の検討を行った。

< 2 > 普及啓発事業

1. ヨコハマbデイ 2012・秋の開催

前年度に引き続いて、横浜市環境創造局と共催して、市民と生物多様性について体感し合う「ヨコハマbデイ」を開催した。特に「ヨコハマbフェスティバル」の皮切りイベントとして位置づけられて、JR横浜駅など各所で広報が積極的に展開された。

2012年10月27日(土)横浜市情報文化センター うごくえこよみ上映、3ピーストーク&活動現場からの中継、ワークショップ「しあわせのタネ」総参加数120名、ワークショップ参加45名

<http://www.ustream.tv/recorded/26458005>

開催に当たっては、FMヨコハマを活用して、番組告知、チラシ配布、環境サイトでの告知などを行った。

2. 普及啓発

1) カワイイから始まる環境保全 「生物多様性」をもっと身近に感じるスマートフォンサイト「Xperia×あにまるLIFE」

スマホで閲覧できるサイトとして、日全国の動物園・水族館・ナチュラリストからご提供いただくカワイイ動物の写真やコラム、実際の動物に会える自然観察会や動物園のイベント情報などをソニーモバイルコミュニケーションズ(株)より定期的に配信した。(現在サービス休止)

2)CEPA ジャパンネットワークミーティングを開催

毎月、生物多様性を守るために、私達にできるアクション！「MY 行動宣言」(国連生物多様性の10年日本委員会)について、ケーススタディを討議し、生物多様性の主流化のための課題の共有と、民間参画を推進させるネットワークの場づくりを「生物多様性を普及啓発させるためのベストプラクティスを考える」で展開しました。

<https://sites.google.com/site/cepajapan2012/home/meeting>

2012年9月4日(火)第1回「地元のもの、旬のものを味わう」東京国際フォーラム G510 会議室

2012年10月2日(火)第2回「エコマークなどがついた環境にやさしい商品を選んで買います」CafeRenoir ニュー八重洲北口店

2012年11月30日(金)第3回「生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加しよう」CafeRenoir ニュー八重洲北口店

2013年3月14日(木)第4回「愛知目標達成のための私たちのKPI(指標)を、考える」千代田区立日比谷図書文化館 4小ホール(スタジオプラス)

3)日本最大の環境展示会 エコプロダクツ 2012(12月13日-15日)において

(1)主催者の日本経済新聞社から「生物多様性が分かる自然観察会」の企画・運営を、NACOTと共同で受託、実施した。コースは、葛西臨海公園(1回/日)、水の広場公園(4回/日)。自然観察会参加者183名。延べスタッフ参加者は64名。

(2)「5 ACTIONS」MY 行動宣言実施。宣言者のべ351名。

(3)環境コミュニケーションステージのトークショー「森・川・海をつなぐをを活かした復興を、世界につなぐ」～「東北復興グリーンウェイ」を拡げよう～に川廷代表が登壇(12月13日)

4)インドのハイデラバードで開催されたカルタヘナ議定書第6回締約国会議(COP-MOP6)(10月1日～5日)および生物多様性条約第11回締約国会議(CBD COP11)(10月8日～19日)に3名を派遣。会場内で開催された「CEPA フェア」において日本のCEPA事例を発表し、他国の事例と共有・議論をするセミナーを行った。また、英語版のCEPA ジャパンリーフレットを配布して、日本からの発信に努めた。さらに、会議と並行して開催されたSATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPS1)第3回定例会合(IPS1-3)(10月6日～7日)、CBD ビジネスと生物多様性グローバルパートナーシップ第2回会合(10月16日)、「High Level Business -Ministerial Breakfast Meeting on "Current Status of B&B- Way forward"」(10月18日)に参加し、参加者に日本のCEPA事例を紹介した。

3. その他

1) CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」・「秋を楽しむ観察会」

横浜環境創造局「ヨコハマbディ 2012 秋」

IMF 世界銀行総会の関連イベント「愛知目標20を達成するための、自然資本会計や革新的資金動員メカニズムはどのようにすべきか？」

東京都港区「あつまれ事業者！港区の生物多様性フォーラム」

【後援】

いただきますの日普及推進委員会「いただきますの日」

【協力】

有限会社新しい村「農力向上&震災復興大作戦！チャリティ収穫祭@新しい村」

2) CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

- 公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- 海と田んぼからのグリーン復興プロジェクトの後継環境機関コンソーシアムへの参加
- SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク設立趣意書への賛同表明
- 生物多様性民間参加パートナーシップへ参加申請、川廷代表はアドバイザーボード
- 国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバーとして、「MY 行動宣言5つのアクション」を生物多様性の主流化に向けたツールとして制作した
- IUCN-J「にじゅうまるプロジェクト」会議に委員として参加した

第2号議案 2012年度収支決算案

貸借対照表

平成25年 3月31日 現在

CEPAジャパン

(単位： 円)

資産の部		
【流動資産】		
現金及び預金	-1,558,349	
売掛金	500,000	
流動資産合計		-1,058,349
資産の部合計		-1,058,349
負債の部		
【流動負債】		
短期借入金	-100,000	
流動負債合計		-100,000
負債の部合計		-100,000
純資産の部		
【株主資本】		
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	-958,349	
その他利益剰余金合計	-958,349	
利益剰余金合計		-958,349
株主資本合計		-958,349
純資産の部合計		-958,349
負債及び純資産合計		-1,058,349

損 益 計 算 書

自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

CEPAジャパン

(単位： 円)

【売上高】

売	上	高			1,227,800
助	成	金			1,401,000
会	費	収	入		282,000
寄	付	金	収	入	104,000

売 上 高 合 計	3,014,800
-----------	-----------

売 上 総 利 益 金 額	3,014,800
---------------	-----------

【販売費及び一般管理費】

販売費及び一般管理費合計	4,134,495
--------------	-----------

営 業 損 失 金 額	1,119,695
-------------	-----------

【営業外収益】

受 取 利 息	81
---------	----

営 業 外 収 益 合 計	81
---------------	----

経 常 損 失 金 額	1,119,614
-------------	-----------

税引前当期純損失金額	1,119,614
------------	-----------

法人税、住民税及び事業税	52,500
--------------	--------

当 期 純 損 失 金 額	1,172,114
---------------	-----------

販売費及び一般管理費内訳書

自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

CEPAジャパン	(単位： 円)
採用教育費	11,400
外注費	1,118,047
広告宣伝費	2,265,000
会議費	8,360
旅費交通費	531,934
通信費	25,120
事務用消耗品費	18,259
諸会費	15,000
支払手数料	7,925
地代家賃	40,000
賃借料	93,450
販売費及び一般管理費合計	4,134,495

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成16年10月14日公益法人等の指導監査等に関する関係省庁連絡会議申合わせ)に基づいて作成している。

(1) 消費税の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当なし。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当なし。

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当なし。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし。

監査報告書

2013年5月 日

一般社団法人 CEPA ジャパン
代表理事 川廷昌弘 様

監事 浅見 哲

私は、第3期(2012年4月1日から2013年3月31日まで)の事業報告及び計算書類(財産目録、貸借対照表及び損益計算書)について監査を行った。

私は、理事の業務執行状況についての監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、団体の業務は法令及び定款に基づき、適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の業務報告書及び計算書類が、一般社団法人CEPAジャパンの2013年3月31日をもって終了する事業年度の業務年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

第3号議案 第4期（2013年度）事業・活動計画

【事業展開方針】

第4期である2013年度は、生物多様性条約事務局との覚書を踏まえた、第3期の「生物多様性国家戦略 2012-2020」への提言反映や、「国連生物多様性の10年日本委員会」の企画業務受託などの本格的活動の開始を受けて、当法人らしい事業展開を模索する年と位置づける。その活動のキーワードとして「いきものぐらし」を掲げ、「5つのアクション」に基づいて事業展開する。

私たちの暮らしに恵みを与え、私たちのいのちを支えてくれている、無数の生きものたちへの感謝の気持ちを込め、私たちも含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしを「いきものぐらし」と呼び、具体的な行動は、当法人の提言によって「生物多様性国家戦略 2012-2020」の「市民の役割」に記載された「5つのアクション」に基づき、日本の暮らしの知恵の伝承を考え、地球の自然資源の保全と持続可能な利用、そして国民の理解醸成に寄与する。

【今年度の具体的な事業】

1、「生物多様性アクション大賞」の創設

「いきものぐらし」による地域づくりでの生物多様性社会の構築を目指すために、各地の取組みを5つのアクションに基づいて収集する装置として実施。「国連生物多様性の10年日本委員会」のパートナーシップ事業であり、CEPA ジャパンの主幹事業となるよう準備を進める。

◆主な事業内容：選考事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、映像制作、贈呈式記念イベントなど

2、普及啓発イベント

「いきものぐらし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容：連続セミナー開催、ネットワーク自然観察会開催、エコプロダクツ展連携など

3、広報

引き続き「CEPA ジャパン」オフィシャルサイトからの情報発信に努め、「いきものぐらし」サイトでの全国各地から「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容：CEPA ニュース配信12回、IUCN-CEC ニュースレターの翻訳と情報発信、CEPA ジャパンサイトによる情報発信、「いきものぐらし」ツール制作など

4、組織運営

当法人への期待に応えるよう事業を活性化させるため、自立した事務局体制の早期確立を目指す。

◆主な事業内容：事務局業務の外部委託、会計的な自立を図るための各種助成金を活用し、併せて自主事業による財源確保、「まずやる」理事会の体制確立

5、他団体との連携

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲット達成に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容：「国連生物多様性の10年委員会」の運営メンバー及び委員、東北大学生態適応センター「海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト」会議体運営、IUCN 日本委員会の「にじゅうまるプロジェクト」のCEPA活動、コンサベーション・インターナショナル、IGESとの「自然資本を測るプロジェクト」、生物多様性民間参画パートナーシップ、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)との協働など

第4号議案 2013年度予算案
一般社団法人 CEPA ジャパン

収支予算書

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日

(単位 円)

科 目	3期予算	4期予算	前期比率
I 経常収支の部			
1. 経常収益			
受取会費	1,380,000	498,000	36.1%
正 会 員	360,000	360,000	100.0%
賛 助 会 員	1,020,000	138,000	13.5%
寄付金	2,400,000	1,000,000	41.7%
寄付金	2,400,000	1,000,000	41.7%
助成金	8,610,000	3,100,000	36.0%
助成金	8,610,000	3,100,000	36.0%
事業収益	11,930,000	1,900,000	15.9%
参加者負担金	330,000	200,000	60.6%
受託費	5,000,000	1,200,000	24.0%
協賛金	5,000,000	500,000	10.0%
その他事業収入	1,600,000	0	0.0%
雑収入	0	0	
受取利息	0	0	
その他雑収入	0	0	
経常収益 計	24,320,000	6,498,000	26.7%
2. 経常費用			
①事業費	22,520,000	4,465,000	19.8%
給与手当	3,320,000	0	0.0%
法定福利費	400,000	0	0.0%
福利厚生費	80,000	0	0.0%
通信運搬費	400,000	200,000	50.0%
水道光熱費	80,000	0	0.0%
旅費交通費	1,700,000	400,000	23.5%

広告宣伝費	0	300,000	#DIV/0!
研修費	240,000	30,000	12.5%
会議費	630,000	20,000	3.2%
消耗品費	470,000	300,000	63.8%
会場等賃借料	1,480,000	100,000	6.8%
保険料	80,000	0	0.0%
諸会費	10,000	15,000	150.0%
支払手数料	0	0	#DIV/0!
業務委託費	12,470,000	2,300,000	18.4%
租税公課	0	0	#DIV/0!
諸謝金	640,000	300,000	46.9%
共催分担金	200,000	200,000	100.0%
雑費	320,000	300,000	93.8%
②管理費	1,270,000	1,095,000	86.2%
給与手当	140,000	0	0.0%
法定福利費	100,000	0	0.0%
福利厚生費	20,000	0	0.0%
通信運搬費	100,000	100,000	100.0%
水道光熱費	20,000	0	0.0%
旅費交通費	60,000	100,000	166.7%
広告宣伝費	0	0	#DIV/0!
研修費	60,000	60,000	100.0%
会議費	30,000	30,000	100.0%
消耗品費	80,000	150,000	187.5%
地代家賃	120,000	40,000	33.3%
保険料	20,000	20,000	100.0%
諸会費	90,000	15,000	16.7%
支払手数料	50,000	20,000	40.0%
業務委託費	300,000	400,000	133.3%
租税公課	0	60,000	#DIV/0!
諸謝金	0	20,000	#DIV/0!
雑費	80,000	80,000	100.0%
経常費用計	23,790,000	5,560,000	23.4%
当期経常増減額	530,000	938,000	177.0%

2.経常外増減の部	
(1)経常外収益	
経常外収益計	0
(2)経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	530,000
一般正味財産期首残高	▲ 238,735
一般正味財産期末残高	291,265
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	291,265

第5号議案 定款変更に関する事

第3条 当法人は主たる事務所の住所を「東京都千代田区」に置く

第6号議案 理事の選任

[理事候補]

川廷 昌弘(再任)

服部 徹(再任)

水野 雅弘(再任)

川上 典子(再任)

森 良(再任)

井上 義雄(再任)

佐藤 健一(再任)

上田 壮一(再任)

坂田 昌子(再任)

佐藤 正弘(再任)

宮本 育昌(新任)

[監事候補]

浅見 哲(再任)

星野 智子(新任)

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、 愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、 地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、 持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたくなる「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。